

特発性正常圧水頭症の画像診断

○佐々木 真理

岩手医科大学 医歯薬総合研究所 超高磁場 MRI 診断・病態研究部門

特発性正常圧水頭症(idiopathic normal pressure hydrocephalus, iNPH)は、高齢者にみられる歩行障害、認知症、失禁の三徴を特徴とする原因不明の脳室拡大を呈する病態である。髄液シャント術によって治療可能であるが、パーキンソン症候群や他の認知症と鑑別が容易でないため、正確な診断が求められる。正常圧水頭症診療ガイドラインでも画像診断が重要視されている。MRI 上、脳室拡大(Evans index > 0.3)、Sylvius 裂拡大、高位円蓋部・正中部クモ膜下腔狭小化の 3 所見の共存が特徴で、DESH (disproportionately enlarged subarachnoid space hydrocephalus)と呼称される。本所見が認められる時は、髄液排出試験無しに治療適応を考慮できる。DESH の判定は冠状断像にて視覚的に行うが、画像統計解析によって精度が向上する。脳血流検査は他疾患との鑑別上参考になるほか、画像統計解析では DESH を反映した CAPPAH (convexity apparent hyperperfusion) sign が認められる。大脳白質病変の程度や髄液動態検査は診断の参考とはならない。無症候の高齢者において DESH を認める例があり、AVIM (asymptomatic ventriculomegaly with features of iNPH on MRI)と呼ばれる。iNPH の前駆状態を含むと考えられている。iNPH と類似の臨床像を呈するものに、LOVA (longstanding overt ventriculomegaly in adult) や Blake's pouch cyst があるが、画像上鑑別可能である。iNPH は特徴的な画像所見を呈するが、十分理解されていない場合が多く、見逃しや誤診につながっている可能性がある。更なるエビデンスの構築と啓蒙活動が必要と考えられる。